

次期学習指導要領から数学教育を考える 趣旨説明

牛瀧文宏（教育委員会委員長）

2019.3.20

日本数学会教育委員会主催シンポジウム

日程

- 2017.11 : 大学入学共通テスト試行調査 (1回目)
- 2018.7 : 高等学校次期学習指導要領解説公開
- 2018.11 : 大学入学共通テスト試行調査 (2回目)
- 2020.1 : 現行の形の最後のセンター入試
- 2021.1 : 最初の大学入学共通テスト (現学習指導要領)
- 2022.4~ : 高等学校で次期学習指導要領開始 (年次進行)
- 2025.1 : 次期学習指導要領での大学入学共通テスト開始

本日の趣旨

- 高大接続改革とは？
- 何を目指して、なぜ入試改革を行うのか？
- 新テストをどう教育に生かすのか？
- 数学のテストは具体的にどのように変わるか？
- 試行調査の結果は？
- センター試験と新テスト

センター試験と試行調査を比較して 変わったこと

- 数学 I.A の試験時間が 60 分から 70 分に増加
- 生活に接地した問題が出題されている
- モデル化を伴う問題が出題されている
- 会話で進む問題が出題されている
- 図形やグラフにコンピュータモニタを利用
- 記述式問題が 3 問出題されている
- 文章量が増えた

問題の性質が変わっている

- センターのような数値を入れる問題が減り、選択肢問題が増加。
- 正しいものをすべて選ばせるタイプの選択肢問題が出題されている。
- 複数の解法で考えさせる問題の出題。
- 誤答の理由を考えさせる問題の出題。

問題数データ

		頁	全問題数	数値記入題	選択肢題	記述題
H31center 本試験	I.A	20	$27+23=50$	$14+23=37$	$13+0=13$	0
	II.B	14	$33+35=68$	$32+34=66$	$1+1=2$	0
H30center 本試験	I.A	17	$20+24=44$	$12+20=32$	$8+4=12$	0
	II.B	14	$26+35=61$	$21+32=53$	$5+3=8$	0
H30center 追試験	I.A	19	$21+24=45$	$15+24=39$	$6+0=6$	0
	II.B	14	$26+34=60$	$24+33=57$	$2+1=3$	0
H29.11 試行調査	I.A	32	$25+23=48$	$3+12=15$	$19+11=30$	$3+0=3$
	II.B	22	$19+26=45$	$7+16=23$	$12+10=22$	0
H30.11 試行調査	I.A	25	$21+28=49$	$3+16=19$	$15+12=27$	$3+0=3$
	II.B	24	$27+27=54$	$10+21=31$	$17+6=23$	0

「(第1問+第2問) + (第3問+第4問+第5問) = 全体」で記載。

ページ数は表紙を除いている。ミスがあったらご容赦を。

この後の流れ：ご講演とパネルディスカッション

ご講演 1

大津 起夫 先生（大学入学センター 試験・研究統括官）
「大学入学共通テストの準備状況について」

ご講演 2

岡本 和夫 先生（大学改革支援・学位授与機構顧問）
「『高大接続改革』をめぐって」

パネルディスカッション と 質問タイム

「大学入試改革と数学教育」

パネリスト

大津 起夫 先生

岡本 和夫 先生

司会

牛瀧 文宏（日本数学会教育委員会委員長・京都産業大学）

趣旨説明 最後に

まだ、試行調査をご覧になったことがない方は、
本日のシンポジウム後に問題をご覧いただき、
ご自分の勤務校の教育への影響を考えられることを、
お勧めします。